

# 9月のほけんだより

令和5年9月号  
第一ルンビニ園

園庭越しのサルスベリ（百日紅）の花が、夏の終わりを告げるかのように満開の花を咲かせています。例年にない連日の猛暑日で寝苦しい夜が続くなど、子ども達も夏の疲れが出てくる頃でもあります。睡眠を十分にとって規則正しい生活を心がけ、季節の変わり目を健康に過ごしましょう。

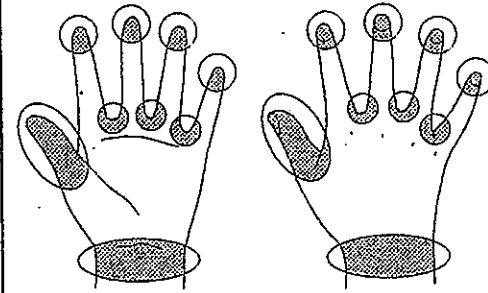
## 《 園児の健康状況 》

- ☆ 連日の35℃前後という体温に近い気温が続く中、子ども達もたくさん汗をかき、体に熱がこもった状態になっていたりしています。冷房の使用や麦茶でこまめに水分補給を行い熱中症の予防に努めていますが、ご自宅でも寝る前や目覚めた時に水分補給を行うなどして予防に努めましょう。また、コロナウィルス感染症の位置づけが2類から5類に引き下げられてから3か月が経過し、感染対策も少し緩和されましたが、秋田市内では少しずつ感染者が増えているようです。園内においての流行はみられませんが、特に大人の感染がみられるようです。引き続き子ども達の視診をしっかりを行い、保護者の方との連絡も密にし感染対策を継続しながら予防に努めていきたいと思えます。
- ☆ 夏風邪の一種と言われるヘルパンギーナは終息しましたが、発熱や胃腸炎のお子さんもみられますので早めにかかりつけの病院で診てもらいましょう。

感染症  
対策には

## しっかり手洗い

洗い残しやすいところ



感染症予防のためには、石けんをよく泡立てたていねいな手洗いが大切です。特に、洗い残しやすい「指先」「指の間」「親指」「手首」をしっかり洗います。

流水で十分に洗い流したら、清潔なタオルやハンカチ、ペーパータオルなどで拭き取ります。

感染症予防の基本である手洗いをきちんと身につけ、実践していきましょう。

夏に多く見られる皮膚トラブル。予防をこころがけていてもかかってしまう事があります。そんな時の対処法を確認しておきましょう。

### 伝染性膿痂疹(とびひ)

**症状** 虫刺されやあせも、すり傷などに黄色ブドウ球菌などが入り込み、水ぶくれができます。水ぶくれが破れ、それをかいた手で、ほかの皮膚に触れると広がります。

**家庭では** 滲出液が多い時や患部が広範囲な時は1~2日間、登園をひかえます。患部を覆うことができれば登園も可能です。プールはとびひの症状がおさまるまでひかえます。患部は石けんとシャワーで洗い流して清潔にします。抗菌薬を含んだ軟膏を塗ります。

### 伝染性軟属腫(水いぼ)

**症状** 白色で水っぽい光沢のある1~5mm大の半球状の腫瘍で、表面は平たく中央に凹みがあるいぼが体にできます。数か月から2年程度で自然に消失するといわれています。

**家庭では** こするとうつるため、わきの下や腕などでは広がりやすいので注意します。また、タオルやビート板などを介してうつるため、共有はしないようにします。

## \*\*\*\*\* 皮膚トラブル \*\*\*\*\*

### あせも

**症状** 背中やひじの内側、首などに白や赤色の発疹が広がります。白く小さいものは1~2日で治りますが、赤いものは皮膚の炎症があり、かゆみをとまいません。

**家庭では** 汗をかいたら、シャワーで流したり、こまめにタオルで拭いたりします。また、着がえさせます。また、あせもをかきこわさないように爪は短く切ります。



### 虫刺され

**症状** 蚊やブユなどに刺されると大きく赤くはれることがあります。かきこわさないようにします。

**家庭では** 患部を石けんでよく洗い、市販の虫刺されやかゆみ止めの薬などをつけます。患部を冷やすとかゆみがやわらぎます。

